九州地方

名前

問1　宮崎県などの温暖な気候を利用する地域で盛んに行われている、ビニールハウスなどの施設を用いて野菜の成長を早め、通常の収穫期よりも早い時期に出荷する栽培方法を何といいますか。（2023年 富山県公立入試 類似）

1. 抑制栽培
2. 近郊農業
3. 促成栽培
4. 有機農業

問2　那覇市の気候統計における気温と降水量の特徴について、札幌市、松本市、高松市、福岡市と比較した記述として正しいものを選択してください。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 南西諸島に位置するため、1月の平均気温が札幌市や福岡市を下回る月があり、冬の乾燥が非常に激しい。
2. 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。
3. 日本の最南端に位置するため、年平均気温は福岡市よりも高いが、年間の総降水量は瀬戸内の高松市よりも少ない。
4. 1月と7月の月平均気温の差が松本市よりも大きいことが、亜熱帯に近い那覇市の気候の大きな特徴である。

問3　九州地方南部に広がるシラス台地は、火山灰が堆積してできた地形で水はけが良すぎるため、古くから稲作には不向きとされてきました。このような自然環境を背景に、鹿児島県で特に発展した農業の特色として最も適切なものはどれですか。（2019年 山形県公立入試 類似）

1. 広大な土地を利用した乳用牛の飼育と、バターやチーズなどの乳製品の加工
2. 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業
3. 急傾斜地を切り拓いて作られた段々畑での温州みかんやレモンなどの果樹栽培
4. 温暖な気候を利用したビニールハウスによるピーマンやきゅうりの促成栽培

問4　1980年から2000年にかけての九州地方における工業出荷額の内訳の変化について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）

1. 加工組立型産業が海外移転により衰退し、再び鉄鋼や化学などの重化学工業が中心となった。
2. 石油化学コンビナートの増設により、化学工業の出荷額が電気機械の出荷額を大きく引き離した。
3. 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。
4. 食料品などの生活関連型産業が急増し、工業出荷額において電気機械を上回り首位となった。

問5　大分県の自然環境と気候の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 県の中央部に比較的なだらかな山地が東西にのびており、北部は冬の季節風の影響で降水量が多く、南部は一年を通じて温暖で降水量が少ない。
2. 中央部に険しい山脈が南北に走っているため、東部は瀬戸内海の影響を受けて年間を通じて雨が少なく、西部は夏に降水量が集中する。
3. 全域が典型的な日本海側気候に属しており、冬の季節風が運ぶ湿った空気によって、県内全域で平野部でも大量の積雪が見られる。
4. 県の中央部を東西に横断する山地の影響で、北部は一年中温暖で雨が少なく、南部は冬の季節風が山を越えて吹き下ろすため降雪量が多い。

問6　福岡空港において、訪日外国人の地域別割合で韓国からの利用者が約半数に達するなど、アジア諸国からの利用が特に多い理由として最も適切なものはどれか。（2022年 徳島県公立入試 類似）

1. 欧米諸国との貿易の拠点として、19世紀から大規模な国際空港として整備されたため
2. 空港周辺に広大な農地が広がり、アジア向け農産物の輸出が中心となっているため
3. 東アジアの主要都市との地理的な距離が近く、短時間での移動が可能であるため
4. 首都圏に近接しており、日本国内の全ての空港の中で最も滑走路数が多いため

問7　九州地方南部の鹿児島県から宮崎県にかけて広がる、過去の火山の巨大噴火による噴出物（火山灰など）が厚く積み重なってできた広大な台地を何と呼びますか。（2023年 沖縄県公立入試 類似）

1. 扇状地
2. 干拓地
3. カルデラ
4. シラス台地

問8　九州地方の最南部に位置する県は、食料自給率が190%と非常に高く、日本の食料供給において重要な役割を果たしています。この県で畜産が盛んになった地理的要因と、生産が盛んなものの組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2024年 北海道公立入試 類似）

1. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水はけが良すぎて稲作に適さないため、豚や肉用牛、鶏などの畜産が発展した。
2. 山地が海岸まで迫る複雑な地形を活かして、斜面での段々畑によるみかんの栽培と、リアス海岸での真珠の養殖が発展した。
3. 冬でも温暖な気候を活かし、ビニールハウスを用いた促成栽培によって、高知平野と同様に野菜の出荷が盛んになった。
4. 筑後川下流の広大な平野を活用し、クリークと呼ばれる水路を整備することで、日本有数の米の生産地となった。

問9　九州地方南部において、稲作よりも肉用牛や豚などの畜産業が盛んになった地理的な要因として最も適切なものはどれですか。（2024年 福井県公立入試 類似）

1. 冬の寒さが厳しく、冷害によって米の収穫量が安定しなかったため。
2. 平地がほとんど存在せず、斜面を利用した果樹栽培しか行えなかったため
3. 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかったため。
4. 年間を通して降水量が極端に少なく、大規模なため池を造ることが困難だったため。

問10　沖縄県の産業構造が、他の都道府県と比較して第三次産業の割合が非常に高い理由として、地理的背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 福岡県公立入試 類似）

1. 内陸部に位置し、海から遠いため、海上輸送に依存しない精密機械工業や高度な情報産業が集中したため。
2. 高緯度で冷涼な気候を活かし、大規模な機械化農業と乳製品の加工販売が一体化しているため。
3. 広大な平野と豊かな水資源を活用した大規模な稲作が行われ、それに関連する製造業が発達したため。
4. 低緯度による温暖な気候やサンゴ礁などの自然資源を活かした観光業が、地域の経済を支える基幹産業となっているため。

問11　九州地方の農業において、有明海に面した筑紫平野の土地利用や特色について説明したものとして、正しいものはどれですか。（2023年 福島県公立入試 類似）

1. 温暖な気候を利用して、ピーマンやきゅうりなどの野菜の促成栽培が盛んに行われている。
2. 平野部が狭いため、山あいの斜面を利用した段々畑での果樹栽培が中心となっている。
3. 広大な干拓地やクリークが整備され、九州地方を代表する稲作地帯となっている。
4. シラス台地と呼ばれる火山灰層が広がっており、水はけの良さを活かした畑作が行われている。

問12　中国の経済成長と沖縄観光の関連について述べた次の文のうち、2010年当時の統計的な事実に基づいた正しい記述はどれですか。（2014年 沖縄県公立入試 類似）

1. 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。
2. 中国の生活水準が低下したため、沖縄を訪れる中国人観光客の数は1990年代から2010年にかけて減少に転じた。
3. 中国がGDPで世界第1位を維持し続けた結果、1990年代から毎年10万人以上の中国人観光客が沖縄を訪れていた。
4. 中国のGDPが世界第3位に低下した時期に、沖縄を訪れる外国人観光客の中で中国人の割合が最も低くなった。

答え合わせ・解説

問1	答え 3 促成栽培	宮崎県や高知県といった冬でも温暖な地域では、その気象条件を活かして他の地域より早く作物を育てる工夫がなされています。ビニールハウスなどを活用することで、本来の旬よりも早い冬から春にかけて出荷することが可能になります。
問2	答え 2 梅雨や台風の影響により年間降水量は多い傾向にあるが、海洋の影響を受けるため、気温の年較差は内陸の松本市より小さい。	那覇市は黒潮（暖流）の影響を受けるため、冬でも温暖で、１年を通した気温の変化が緩やかです。そのため、内陸部特有の気候を持ち気温差が激しい松本市と比較すると、１月と７月の気温差は小さくなります。降水量については、台風の進路にあたることや梅雨の影響で、全国的に見ても多い部類に入ります。福岡市よりも平均気温が低い、あるいは高松市よりも年降水量が少ないといった記述は、実際の統計上の傾向とは異なります。
問3	答え 2 水はけの良さを活かしたサツマイモなどの畑作や、肉用牛・豚などの畜産業	鹿児島県の大半を覆うシラス台地は、水分を保持しにくい性質があるため、水田稲作よりも畑作に適しています。このため、乾燥に強いサツマイモの栽培や、広大な台地を利用した肉用牛・豚・鶏（ブロイラー）などの畜産業が組み合わされ、全国有数の農業地帯となりました。他の選択肢のうち、促成栽培は宮崎平野や高知平野、果樹栽培は愛媛県や和歌山県、大規模な酪農は北海道などで顕著に見られる特色です。
問4	答え 3 鉄鋼や化学などの基礎素材型産業の割合が減少し、電気機械などの加工組立型産業の割合が増加した。	九州地方では、かつて北九州工業地帯を中心に鉄鋼や化学といった「基礎素材型産業」が盛んでしたが、1980年代以降、空港周辺や高速道路沿いにIC（集積回路）などの工場が進出したことで「シリコンアイランド」と呼ばれるようになりました。これにより、電気機械や輸送用機械に代表される、部品を組み立てて製品を作る「加工組立型産業」の割合が大きく上昇し、産業構造の転換が起こりました。
問5	答え 1 県の中央部に比較的なだらかな山地が東西にのびており、北部は冬の季節風の影響で降水量が多く、南部は一年を通じて温暖で降水量が少ない。	大分県の中央部には東西方向になだらかな山地が広がっています。この地形的要因により、冬には北からの湿った季節風が山地にぶつかることで県北部に降水（降雪）をもたらします。一方で、南部はこれらの山地に遮られることや、黒潮などの影響を受ける地理的条件から、年間を通じて温暖で、北部と比較すると冬の降水量は少ない傾向にあります。
問6	答え 3 東アジアの主要都市との地理的な距離が近く、短時間での移動が可能であるため	福岡市は「アジアの玄関口」とも呼ばれるように、韓国のソウルや釜山、中国の上海といった東アジアの主要都市に非常に近い位置にあります。特に韓国とは、東京へ移動するよりも短時間で往来できる場合があり、格安航空会社（LCC）の就航も盛んなことから、アジア圏からの観光客が利用しやすい環境が整っています。この地理的優位性が、特定の国からの高い利用割合に結びついています。
問7	答え 4 シラス台地	鹿児島県周辺には、火山の噴出物である火山灰や軽石などが堆積してできた大規模な台地が存在します。この地形は水はけが非常に良いという特徴があり、かつては水不足に悩まされることもありましたが、現在ではその特性を活かした畑作や畜産が盛んに行われています。
問8	答え 1 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水はけが良すぎて稲作に適さないため、豚や肉用牛、鶏などの畜産が発展した。	鹿児島県などの九州南部には、過去の火山活動による火山灰が降り積もってできた「シラス台地」が広がっています。この大地は非常に水はけが良く、農業用水の確保が困難であったため、古くから水田（稲作）には不向きな土地とされてきました。そのため、水不足に強いさつまいもなどの畑作や、広大な土地を利用した豚、肉用牛、ブロイラー（鶏）などの畜産が盛んになり、現在では日本有数の畜産地帯となっています。
問9	答え 3 火山灰が堆積したシラス台地が広がり、水持ちが悪く稲作に適さなかったため。	南九州には、火山の噴出物による「シラス台地」が広がっています。シラスは水はけが非常に良く、水分を蓄える力（保水力）が低いため、水を張る必要がある稲作には適していませんでした。そのため、広大な土地と温暖な気候を利用して、牛や豚を育てる畜産業や、畑作が発展しました。
問10	答え 4 低緯度による温暖な気候やサンゴ礁などの自然資源を活かした観光業が、地域の経済を支える基幹産業となっているため。	沖縄県は日本列島の南端に位置し、緯度が低いため年間平均気温が高いという地理的特性を持っています。また、周囲を海に囲まれ、美しいサンゴ礁が発達していることから、これらを観光資源としたレジャー・サービス業が発展しました。一方で、島嶼部であるために大規模な工業用地の確保や原材料の輸送コストに課題があり、重化学工業などの第二次産業よりも、自然環境を資源とする第三次産業が中心の構造になっています。
問11	答え 3 広大な干拓地やクリークが整備され、九州地方を代表する稲作地帯となっている。	筑紫平野は有明海沿岸の干拓によって農地を拡大してきた歴史があり、農業用水を確保するためのクリークが網の目のように張り巡らされているのが特徴です。一方、野菜の促成栽培は宮崎平野、シラス台地は九州南部（鹿児島県や宮崎県）の特色であるため、これらと区別する必要があります。
問12	答え 1 中国のGDPが日本を追い抜き世界第2位となった時期に、沖縄を訪れる中国人観光客は1990年代末の約20倍以上に増加した。	2010年は、中国のGDP（国内総生産）が日本を上回り、世界第2位の経済大国となった節目の年です。この時期、沖縄県を訪れた中国人観光客数は、1998年の474人から2010年には10,888人へと急増しており、約12年間で20倍を超える規模に拡大しました。これは、中国の経済成長が近隣地域への観光需要に直結していることを示しています。